リスニング能力向上における短期集中学習の効用について(Ⅱ)

坂　本　育　生*

(1998年10月15日　受理)

On the Effectiveness of Intensive Short Courses for Developing Listening Comprehension Skills (II)

Ikuo SAKAMOTO

(はじめに)

本稿は，先の『鹿児島大学教育学部　教育実践研究紀要　第8巻』に発表した「リスニング能力向上における短期集中学習の効用について」に引き続いて，その調査研究の詳細を論じたものである。[1] 先の調査研究において，わずか5日間にわたる集中学習の結果，実用英語検定試験2級程度のリスニングテストの，被験者217名の調査において，20点満点の試験で，集中学習の成果として，事前平均点10.80点から，事後平均点15.82点という，実に5.02点の向上が見られたのであるが，本稿においては，被験者217名全てのより詳細なデータを記載し，その得点伸長の原因について論じてみることが，主要な目的である。

具体的事例の分析は，本論で詳細に論じるが，大幅な得点伸長の主な要因としては，訓練段階の能力を持った，いわゆる instructional な学生が，単なる単位習得の目的のみでなく，英語学習により積極的な姿勢で講義に望んだ場合において，より大きな伸長が見られる傾向を示しているように思われる。要するに，英語教師にとっての永遠の課題である，いかにして学習意欲を高めてゆくのか，という重要な命題とも関わるのである。

さて，1997年度 JACET 学術賞を受賞し，JACET 九州・沖縄支部研究プロジェクトとしてまとめられた，『このままでよいか大学英語教育　―中・韓・日3か国の大学生の英語学力と英語学習実態―』により，日本人大学生の貧弱な英語力と英語学習実態が明らかにされたが，日本人大学生も，何らかのきっかけが与えられれば，中国や韓国の大学生と同等の英語力を有する潜在能力を持ち得ることが，本稿において証明されれば幸いである。私見ではあるが，少なくとも，現在の鹿児島大学在学生に関しては，短期集中学習により，大多数の学生が，意義ある significant なリスニング能力の向上が達成されたように思われる。[2]

*鹿児島大学教育学部

（Ⅰ） 短期集中学習と調査の全体の概要

1998年７月13日から17日の５日間にわたり，夏期集中講義において，１日当たり２コマから４コマ（１コマ90分）の講義を，事前・事後のリスニングテストを含めて，合計15コマ実施した。リスニングテストの内容は，過去の英語検定２級のリスニングテストから選択したものであり，20点満点の選択問題である。短期集中学習以前のいわゆる事前のリスニングテストの全体の平均点は，受験者合計217名（１年生135名，２年生82名）で10.80点であった。

事前テストのあと，13コマにわたって，１日２コマから４コマの短期集中講義を実施した。使用テキストは，『７日間完成　英検２級　二次試験対策』（ECC編集　南雲堂出版　CD付き）であった。程度としても，高校卒業程度であり，大学１，２年生にとってもほぼ適当であると思われた。講義中には，CDによるアメリカ人の英語を繰り返し聴き，その後音読も繰り返し実施した。学生にとっては，多少単調に思われたかもしれないが，いわゆる只管朗読を集中して行なったことになる。13コマの講義により，120ページあまりのテキストの内容の全てを終了し，受講生は正味17時間あまりにわたって英語に接したことになる。

集中講義の最後の時間に，再び過去の英検２級のリスニングテストから抜粋した20問からなる，20点満点の事後のリスニングテストを実施した。程度は，事前のリスニングテストと同程度のものである。結果は，事前テストと同じ被験者において，全体で15.82点で，実に5.02点のアップであった。

受験生全員および１，２年生別の短期集中学習の事前・事後の平均点は，以下のとおりである。

［統計１．全体］	事前平均点		事後平均点	伸長度
全体：	10.80点	→	15.82点	＋5.02点
１年：	11.25点	→	16.06点	＋4.81点
２年：	10.06点	→	15.41点	＋5.35点

いずれの場合にも，点数にして約５点というかなりの伸長が見られたが，合格ラインが約60%，つまり，20点満点にして12点前後と言われる英検２級のテストにおいて，合格ラインを越えるための，この５点の伸長は，極めて意義ある数値と言えるであろう。短期集中学習の効用が，このテスト結果によって全体的に実証された，と言える。

では引き続いて，次章では，学部別の個人のデータを分析してみよう。

（Ⅱ） 学部別分析

（Ⅱ）－１　法文学部

法文学部学生71名（１年：42名，２年：29名）の全体，学年別の事前平均点，および事後平均点は，以下のとおりである。

［統計２．法文］

	事前平均点		事後平均点	伸長度
全体：	11.32点	→	16.63点	＋5.31点
１年：	11.67点	→	16.62点	＋4.95点
２年：	10.83点	→	16.66点	＋5.83点

また，今回公表する，71名全員の個人別の事前・事後の得点，および伸長度，出席回数，自己学習，授業に対しての積極性に関するデータは，以下の表１のとおりである。

［表１．法文］ [3)]

学生番号	事前得点		事後得点	伸長度	出席回数	自己学習	積極性	注目度
1	９点	→	16点	＋７点	13回	０時間	B	○
2	10点	→	13点	＋３点	15回	４時間	B	
3	18点	→	19点	＋１点	15回	２時間	A	
4	８点	→	17点	＋８点	15回	２時間	A	○
5	10点	→	14点	＋４点	15回	５時間	B	
7	８点	→	14点	＋６点	15回	１時間	B	
8	17点	→	20点	＋３点	15回	１時間	B	
9	13点	→	17点	＋４点	15回	３時間	A	
10	10点	→	16点	＋６点	15回	１時間	B	
11	15点	→	16点	＋１点	15回	１時間	B	
12	９点	→	17点	＋８点	15回	１時間	B	○
14	13点	→	15点	＋２点	15回	３時間	B	
15	９点	→	17点	＋８点	15回	３時間	A	○
16	９点	→	18点	＋９点	15回	０時間	A	○
17	12点	→	19点	＋７点	15回	３時間	B	○
18	７点	→	17点	＋10点	15回	２時間	A	◎
19	14点	→	20点	＋６点	15回	５時間	A	
20	11点	→	16点	＋５点	15回	３時間	B	
21	９点	→	15点	＋６点	15回	６時間	A	
22	11点	→	15点	＋４点	15回	２時間	A	
23	12点	→	18点	＋６点	15回	２時間	A	
24	11点	→	12点	＋１点	15回	０時間	B ＊	
28	12点	→	15点	＋３点	15回	３時間	C	
29	５点	→	12点	＋７点	14回	０時間	B	○

30	11点	→	11点	± 0 点	15回	2 時間	B		□
31	18点	→	19点	+ 1 点	15回	2 時間	A		
32	12点	→	20点	+ 8 点	15回	3 時間	B		○
33	16点	→	20点	+ 4 点	15回	3 時間	B		
35	9 点	→	16点	+ 7 点	15回	3 時間	A		○
36	9 点	→	14点	+ 5 点	15回	3 時間	A		
37	12点	→	18点	+ 6 点	15回	0 時間	B		
38	15点	→	18点	+ 3 点	15回	1 時間	B		
39	10点	→	16点	+ 6 点	15回	0 時間	B		
40	9 点	→	17点	+ 8 点	15回	0 時間	B		○
41	11点	→	18点	+ 7 点	15回	5 時間	A		○
42	15点	→	17点	+ 2 点	15回	3 時間	B		
43	12点	→	18点	+ 6 点	15回	0 時間	B		
44	12点	→	16点	+ 4 点	15回	1 時間	B		
45	13点	→	19点	+ 6 点	15回	3 時間	B		
46	15点	→	18点	+ 3 点	15回	3 時間	B		
47	15点	→	17点	+ 2 点	15回	0 時間	B		
48	13点	→	18点	+ 5 点	15回	3 時間	A		
165	18点	→	19点	+ 1 点	15回	0 時間	B		
166	11点	→	17点	+ 6 点	15回	0 時間	A		
167	13点	→	19点	+ 6 点	15回	1 時間	B		
168	11点	→	18点	+ 7 点	14回	2 時間	B		○
169	9 点	→	18点	+ 9 点	15回	1 時間	A		○
170	13点	→	20点	+ 7 点	13回	2 時間	B		○
171	14点	→	19点	+ 5 点	15回	5 時間	A		
173	12点	→	15点	+ 3 点	14回	0 時間	C		
174	3 点	→	18点	+15点	15回	0 時間	B		◎
175	8 点	→	16点	+ 8 点	15回	3 時間	B		○
176	9 点	→	16点	+ 8 点	14回	0 時間	B		○
178	7 点	→	11点	+ 4 点	15回	1 時間	C		
179	11点	→	17点	+ 6 点	15回	5 時間	B		
180	8 点	→	17点	+ 9 点	15回	2 時間	B		○
181	11点	→	12点	+ 1 点	15回	0 時間	C	*	
182	9 点	→	10点	+ 1 点	15回	1 時間	B		

185	10点	→	13点	＋３点	14回	２時間	C	
186	12点	→	18点	＋６点	15回	３時間	B	
187	18点	→	19点	＋１点	15回	０時間	C	
188	８点	→	15点	＋７点	13回	３時間	B	○
189	10点	→	16点	＋６点	15回	３時間	B	
190	10点	→	14点	＋４点	15回	５時間	B	
191	13点	→	17点	＋４点	15回	１時間	C	
192	17点	→	17点	±０点	15回	３時間	B	□
193	８点	→	16点	＋８点	15回	１時間	B	○
194	17点	→	19点	＋２点	15回	２時間	B	
195	９点	→	16点	＋７点	15回	２時間	B	○
196	７点	→	13点	＋５点	10回	１時間	C	

法文学部からの受講生は，71名という最も多い受講生であったが，データからも分かるように，ほとんどの学生が，得点の伸長を示しており，中には174番の学生のように，３点→18点という全体でも最高の数値を示している事例も見られる。伸長が見られないものは，±０が２例，＋１点が数例のみである。このうち，１例は17点→17点という，独立に自己学習能力を有すると見られる学生であるので，能力の沈滞とは思われないが，後の事例は，11点→11点，11点→12点という数値であるから，残念ながら，今回の短期集中学習による有意な向上は得られなかった，と思われる。しかしながら，一般に，法文学部は，鹿児島大学唯一の純粋な文科系学部であり，夏期休暇中にもかかわらず，積極的に受講する学生が多かったため，大多数の受講生において，意義ある得点の向上が得られた，と結論づけることができるであろう。

（Ⅱ）－２　教育学部

教育学部学生15名（１年：12名，２年：３名）の全体，学年別の事前平均点，および事後平均点は，以下のとおりである。

［統計３．教育］		平均点		事後平均点	伸長度
	全体：	11.60点	→	16.53点	＋4.93点
	１年：	11.92点	→	17.00点	＋5.08点
	２年：	10.33点	→	14.67点	＋4.34点

また，今回公表する，15名全員の個人別の事前・事後の得点，および伸長度，出席回数，自己学習，授業に対しての積極性に関するデータは，以下の表２のとおりである。

［表２．教育］ [4)]

学生番号	事前得点		事後得点	伸長度	出席回数	自己学習	積極性	注目度
49	９点	→	18点	＋９点	14回	４時間	A	○
50	16点	→	18点	＋２点	15回	１時間	B	
51	10点	→	14点	＋４点	14回	０時間	B	
52	16点	→	20点	＋４点	14回	２時間	A	
56	17点	→	20点	＋３点	14回	１時間	B	
58	13点	→	19点	＋６点	14回	３時間	B	
59	14点	→	16点	＋２点	15回	２時間	B	
60	12点	→	18点	＋６点	15回	１時間	B	
62	11点	→	16点	＋５点	14回	２時間	A	
65	12点	→	19点	＋７点	14回	２時間	A	○
67	８点	→	８点	±０点	13回	４時間	B	□
71	５点	→	18点	＋13点	11回	３時間	A	◎
200	13点	→	16点	＋３点	10回	０時間	C	
201	14点	→	16点	＋２点	12回	１時間	C	
205	４点	→	12点	＋８点	９回	１時間	C	○

教育学部においても，５点→18点という，極めて高い得点の伸長を示している事例が見られ，その他の場合にも，ほとんどの学生で，得点の向上が見られる。ただ，67番の学生の事例においてのみ，８点→８点という，英検２級には合格できないレベルのままにとどまっている事例も見られた。個別アンケートによると，自己学習時間も多く，積極性もあるのであるが，得点の向上が見られない，ということは，英語の基礎に問題があるのかもしれない。今後の課題として，さらに，調査，研究を進める必要があるであろう。

（Ⅱ）－３　理学部

理学部学生23名（１年：７名，２年：16名）の全体，学年別の事前平均点，および事後平均点は以下のとおりであるが，＋6.21点という伸長度は，８学部中最高である。

［統計４．理］

	事前平均点		事後平均点	伸長度
全体：	8.09点	→	14.30点	＋6.21点
１年：	8.43点	→	15.29点	＋6.86点
２年：	7.94点	→	13.88点	＋5.94点

また，今回公表する，23名全員の個人別の事前・事後の得点，および伸長度，出席回数，自己学習，授業に対しての積極性に関するデータは，以下の表３のとおりである。

［表３．理］

学生番号	事前得点		事後得点	伸長度	出席回数	自己学習	積極性	注目度
72	13点	→	14点	＋１点	15回	６時間	B	
74	６点	→	18点	＋12点	15回	１時間	B	◎
77	５点	→	15点	＋10点	15回	２時間	B	◎
78	11点	→	16点	＋５点	15回	７時間	A	
79	７点	→	15点	＋８点	15回	１時間	A	○
80	９点	→	15点	＋６点	15回	２時間	A	
83	８点	→	14点	＋６点	15回	０時間	C	
206	５点	→	11点	＋５点	15回	１時間	B	
207	５点	→	８点	＋３点	15回	０時間	B	
208	７点	→	14点	＋７点	15回	０時間	A	○
209	８点	→	18点	＋10点	15回	１時間	B	◎
211	７点	→	15点	＋８点	15回	１時間	B	○
212	６点	→	11点	＋５点	15回	１時間	B	
213	６点	→	13点	＋７点	15回	０時間	B	○
217	12点	→	16点	＋４点	15回	２時間	B	
218	９点	→	15点	＋６点	13回	１時間	B	
219	４点	→	６点	＋２点	14回	２時間	C	
220	９点	→	14点	＋５点	15回	２時間	A	
221	10点	→	16点	＋６点	15回	０時間	B	
222	11点	→	16点	＋５点	15回	６時間	B	
224	７点	→	15点	＋８点	15回	１時間	B	○
225	８点	→	16点	＋８点	15回	６時間	A	○
226	13点	→	18点	＋５点	15回	２時間	A	

理学部においては，全ての事例において得点の向上がみられ，○，◎の注目度を示した事例も，23名中９名と，かなりの割合を示し，授業に対する積極性もかなり高い。また最も注目すべき点は，事前の8.09点という不合格レベルの平均点が，短期集中学習事後には，14.30点という，合格レベルに達しているということである。まさに，instructional な学生の能力を，見事に向上させることが出来た絶好の事例，と言えるであろう。

（Ⅱ）－4　医学部

医学部学生23名（1年：20名，2年：3名）の全体，学年別の事前平均点および事後平均点は，以下のとおりであるが，伸長度は，＋3.00点と最も低かった。

［統計5．医］

	事前平均点		事後平均点	伸長度
全体：	14.17点	→	17.17点	＋3.00点
1年：	14.10点	→	17.10点	＋3.00点
2年：	14.67点	→	17.67点	＋3.00点

また，今回公表する，23名全員の個人別の事前・事後の得点，および伸長度，出席回数，自己学習，授業に対しての積極性に関するデータは，以下の表4のとおりである。

［表4．医］

学生番号	事前得点		事後得点	伸長度	出席回数	自己学習	積極性	注目度
84	15点	→	17点	＋2点	15回	8時間	A	
85	14点	→	17点	＋3点	15回	2時間	A	
86	16点	→	19点	＋3点	15回	5時間	A	
87	17点	→	19点	＋2点	15回	0時間	B	
88	19点	→	20点	＋1点	15回	1時間	B	
89	13点	→	16点	＋3点	15回	1時間	B	
90	15点	→	18点	＋3点	15回	2時間	B	
91	14点	→	19点	＋5点	15回	1時間	B	
92	6点	→	16点	＋10点	15回	6時間	A	◎
93	8点	→	16点	＋8点	14回	2時間	B	○
94	16点	→	17点	＋1点	15回	2時間	B	
95	19点	→	15点	－4点	14回	0時間	C	●
96	15点	→	15点	±0点	15回	2時間	C	□
97	17点	→	17点	±0点	15回	5時間	B	□
98	13点	→	19点	＋6点	15回	7時間	A	
99	14点	→	15点	＋1点	15回	2時間	B	
100	14点	→	15点	＋1点	15回	7時間	A	
101	14点	→	18点	＋4点	15回	1時間	B	
102	15点	→	18点	＋3点	15回	1時間	B	
103	8点	→	16点	＋8点	12回	1時間	B	○

228	9点	→	16点	＋7点	14回	2時間	B	○
229	19点	→	20点	＋1点	15回	0時間	B	
230	16点	→	17点	＋1点	14回	1時間	B	

医学部の場合には，事前段階において，すでに平均点が14.17点という英検2級合格レベルに達しており，そのために，事後の得点の伸長も，＋3点と最も少ないのであるが，その点は致し方ないように思われる。個別的に見れば，事例92のように，＋10点を示しているものもあり，事例98の場合には，約7時間もの自己学習を遂行し，積極性が極めて高い事例も見られた。[5)]

一方，事例95のように，－4点という今回の調査で最も大きな低下を見た事例もあった。この場合には，やはり学生の積極性はあまり高くない。

（Ⅱ）－5　歯学部

歯学部学生31名（1年：26名，2年：5名）の全体，学年別の事前平均点，および事後平均点は，以下のとおりである。

［統計6．歯］

	事前平均点		事後平均点	伸長度
全体：	12.13点	→	17.16点	＋5.03点
1年：	12.23点	→	17.00点	＋4.77点
2年：	11.60点	→	18.00点	＋6.40点

また，今回公表する，31名全員の個人別の事前・事後の得点，および伸長度，出席回数，自己学習，授業に対しての積極性に関するデータは，以下の表5のとおりである。

［表5．歯］

学生番号	事前得点		事後得点	伸長度	出席回数	自己学習	積極性	注目度
104	17点	→	18点	＋1点	15回	1時間	C	
105	12点	→	16点	＋4点	15回	3時間	B	
106	11点	→	14点	＋3点	15回	1時間	C	
107	11点	→	18点	＋7点	15回	0時間	A	○
108	7点	→	14点	＋7点	15回	2時間	B	○
109	14点	→	18点	＋4点	15回	0時間	B	
110	11点	→	16点	＋5点	15回	2時間	B	
111	12点	→	16点	＋4点	15回	5時間	B	
112	14点	→	19点	＋5点	15回	3時間	B	

113	20点	→	20点	± 0 点	15回	1 時間	B	*	□
114	9 点	→	10点	+ 1 点	15回	0 時間	D	*	
115	10点	→	18点	+ 8 点	15回	3 時間	B		○
116	17点	→	18点	+ 1 点	15回	1 時間	C		
117	8 点	→	14点	+ 6 点	15回	1 時間	B		
118	13点	→	18点	+ 5 点	15回	3 時間	B		
119	9 点	→	15点	+ 6 点	15回	2 時間	B		
120	9 点	→	16点	+ 7 点	15回	0 時間	B		○
122	13点	→	17点	+ 4 点	15回	0 時間	B		
123	18点	→	19点	+ 1 点	15回	1 時間	B		
124	10点	→	17点	+ 7 点	15回	2 時間	B		○
125	10点	→	15点	+ 5 点	15回	0 時間	B		
126	14点	→	16点	+ 2 点	15回	0 時間	C		
127	11点	→	16点	+ 5 点	15回	0 時間	B		
128	12点	→	16点	+ 4 点	15回	0 時間	B		
129	14点	→	19点	+ 5 点	15回	0 時間	B		
130	12点	→	16点	+ 4 点	15回	2 時間	B		
231	12点	→	19点	+ 7 点	14回	1 時間	B		○
232	9 点	→	16点	+ 7 点	15回	0 時間	B		○
233	11点	→	17点	+ 6 点	15回	0 時間	A		
234	12点	→	20点	+ 8 点	15回	1 時間	A		○
236	14点	→	18点	+ 4 点	11回	4 時間	B		

歯学部の場合には，共通科目（以前の一般教育科目）の必修単位数がかなり多く，カリキュラムもぎっしり詰まっている。そのため，夏期集中講義の教養科目が，かなり重視されており，今回も1年生の定員60名中，実に26名という高い割合の学生が受講している。

全体としては，事前の12.13点という合格ギリギリの点数から，事後の17.16点となり，+5.03点というかなりの向上を示しており，特に2年生の向上が著しく，事前においては1年生よりも低かったのであるが，事後においては，それが逆転している。この短期講座において，大学入学後に低下した英語力が，若干呼び戻された，と言えるかもしれない。

個別的には，事例113のように，事前・事後ともに両方のテストで20点満点という，今回の調査で唯一の事例が見られた一方において，事例114のように，9点→10点という，わずか1点の伸長しか見られず，不合格段階に留まっている場合もあり，積極性も極めて低かった。同じクラスで同じ講義を受けた場合にも，かなりの個人差が見られることが判明した。

（Ⅱ）－6　工学部

工学部37名（1年：21名，2年：16名）の全体，学年別の事前平均点，および事後平均点は，以下のとおりであるが，伸長度は，＋4.70点と，医学部に次いで低かった。

［統計7．工］

	事前平均点		事後平均点	伸長度
全体：	8.89点	→	13.59点	＋4.70点
1年：	8.10点	→	13.43点	＋5.33点
2年：	9.94点	→	13.81点	＋3.87点

また，今回公表する，37名全員の個人別の事前・事後の得点，および伸長度，出席回数，自己学習，授業に対しての積極性に関するデータは以下の表6のとおりである。

［表6．工］

学生番号	事前得点		事後得点	伸長度	出席回数	自己学習	積極性	注目度
132	17点	→	16点	－1点	15回	5時間	C	●
133	13点	→	13点	±0点	15回	2時間	C	□
134	7点	→	9点	＋2点	15回	0時間	C	
137	6点	→	15点	＋6点	15回	2時間	B	
138	10点	→	16点	＋6点	15回	1時間	B	
139	6点	→	10点	＋4点	15回	1時間	B	
140	6点	→	13点	＋7点	15回	0時間	B	○
141	7点	→	9点	＋2点	15回	1時間	B	
143	11点	→	16点	＋5点	15回	2時間	B	
144	10点	→	12点	＋2点	15回	1時間	B	
145	5点	→	13点	＋8点	15回	2時間	B	○
146	11点	→	19点	＋8点	15回	1時間	A	○
147	4点	→	10点	＋6点	15回	0時間	B	
148	3点	→	13点	＋10点	14回	0時間	B	◎
149	5点	→	13点	＋8点	15回	1時間	B	○
150	4点	→	12点	＋8点	15回	2時間	B	○
151	7点	→	12点	＋5点	15回	1時間	B	
152	7点	→	9点	＋2点	15回	2時間	B	
153	9点	→	17点	＋8点	15回	1時間	B	○
154	15点	→	18点	＋3点	15回	3時間	B	

155	7点	→	17点	+10点	15回	3時間	B	◎
237	11点	→	15点	+4点	15回	0時間	B	
239	11点	→	17点	+6点	14回	5時間	B	
240	9点	→	10点	+1点	14回	5時間	B	
241	10点	→	10点	±0点	15回	0時間	C	□
242	8点	→	14点	+6点	15回	0時間	A	
243	9点	→	16点	+7点	15回	1時間	B	○
244	9点	→	17点	+8点	14回	1時間	B	○
245	13点	→	17点	+4点	15回	1時間	B	
246	7点	→	15点	+8点	15回	4時間	A	○
247	3点	→	13点	+10点	15回	0時間	B	◎
248	12点	→	17点	+5点	15回	1時間	B	
250	6点	→	12点	+6点	15回	1時間	B	
251	1点	→	11点	+10点	9回	5時間	B	◎
252	11点	→	11点	±0点	15回	1時間	C	□
257	4点	→	10点	+6点	14回	1時間	B	
258	4点	→	16点	+12点	15回	1時間	A	◎

工学部の場合にも，事例247，251，258のように，+10点を越える向上が見られた例がある一方において，事例132，133，241，252のように，マイナスもしくは±0という場合も見られた。いずれの場合にも，授業への積極性との相関関係が高い。特に，事前には1点ないしは3点という極めて低い得点しか取れなかった学生が，事後においては10点を越える事例がいくつも挙げられる点は，注目に値する。この集中講義が引き金（trigger）となって，学生の持つ潜在能力が呼び起こされた，と言えるであろう。

(II) −7　農学部

農学部学生8名（1年：7名，2年：1名）の全体，学年別の事前平均点，事後平均点，および事後平均点は以下のとおりであるが，+5.63点という伸長度は，理学部に次ぐ数値である。

［統計8．農］		事前平均点		事後平均点	伸長度
	全体：	8.25点	→	13.88点	+5.63点
	1年：	8.14点	→	13.29点	+5.15点
	2年：	9.00点	→	18.00点	+9.00点

また，今回公表する，８名全員の個人別の事前・事後の得点，および伸長度，出席回数，自己学習授業に対しての積極性に関するデータは，以下の表７のとおりである。

［表７．農］

学生番号	事前得点		事後得点	伸長度	出席回数	自己学習	積極性	注目度
156	15点	→	14点	－１点	15回	０時間	C	●
157	10点	→	12点	＋２点	15回	２時間	C	
158	９点	→	９点	±０点	15回	１時間	C	□
159	７点	→	14点	＋７点	15回	２時間	B	○
160	２点	→	10点	＋８点	15回	２時間	B	○
162	６点	→	18点	＋12点	14回	１時間	A	◎
164	８点	→	16点	＋８点	15回	２時間	A	○
259	９点	→	18点	＋９点	15回	３時間	A	○

農学部からの受講者数は少なかったが，この学部においては，積極性が高い学生は得点の伸長が大きく，そうでない場合には，伸長が低い，もしくは見られない，という傾向が明確に証明されたように思われる。事例156～158の場合には，伸長度が無いか極めて低いが，159～259の5例の場合には，いずれも伸長度が著しく，積極性も高い。特に，事例162と259の場合には，将来の海外留学という英語学習の目的が，他の場合よりも一層明確であった。やはり，英語の学習意欲によって，大きな伸長差が生じることが証明された。[6)]

（Ⅱ）－８　水産学部

水産学部学生９名（１年生：０名，２年生：９名）の事前平均点，および事後平均点は以下のとおりであるが，＋5.56点という伸長度は，理，農に次ぐものである。[7)]

［統計９．水産］

	事前平均点		事後平均点	伸長度
２年：	9.22点	→	14.78点	＋5.56点

また，今回公表する，９名全員の個人別の事前・事後の得点，および伸長度，出席回数，自己学習，授業に対しての積極性に関するデータは，以下の表８のとおりである。

［表８．水産］

学生番号	事前得点		事後得点	伸長度	出席回数	自己学習	積極性	注目度
261	６点	→	13点	＋７点	15回	０時間	B	○

262	8点	→	15点	＋7点	15回	4時間	A	○
263	9点	→	10点	＋1点	15回	4時間	B	
264	9点	→	13点	＋4点	15回	2時間	B	
265	6点	→	13点	＋7点	15回	5時間	B	○
267	15点	→	19点	＋4点	14回	0時間	B	
268	14点	→	16点	＋2点	15回	2時間	C	
269	9点	→	17点	＋8点	15回	2時間	B	○
270	7点	→	17点	＋10点	15回	1時間	B	◎

水産学部からの今回の受講生は　あまり多くはなかったが，全ての場合において向上が見られ，不合格レベルから合格レベルへの，significant な向上が見られた。○，◎の注目に値する事例も，5／9という実に過半数を越える割合を示した。一般に，学習意欲も高く，英語力を向上させることを目的とした積極的な学生が多かったようである。

（Ⅲ）まとめ

以上これまで，リスニング能力向上における短期集中学習の効用について，前回の論文では紹介出来なかった217の個々の事例のデータについて，その紹介と分析を試みてきた。全体のデータをまとめてみると，以下の統計となる。

［統計10．事前・事後の総括］

◎	：＋10点以上	：　14例
○	：＋7～9点	：　56例
無印	：＋1点～6点	：134例
□	：±0	：　10例（ただし両方満点1例有）
●	：－1点以下	：　3例

つまり，今回の調査研究においては，圧倒的多数の事例において，得点の向上が見られ，その結果，リスニング能力向上における，短期集中学習の効用が証明された，と結論付けることができるであろう。その際に，もちろん個人差がみられるが，英語学習のための動機，いわゆる motivation が明確であるほど，その効用が大きいように思われる。

最後に，一般に，地方大学においては，学生の間で，都会の大学に対しての劣等感がしばしば見られ，自分達が能力的に劣るのではないか，という危惧感が，強く感じられることがあるが，彼らの潜在能力を引き出すことにより，そのような理由なき劣等感を取り去ることができ，教育者のひとつの指針となれば，筆者としては幸いである。

（注）

1）詳細は，坂本（1998）を参照。
2）詳細に関しては，参考文献を参照。
3）調査の詳細に関しては，坂本（1998）を参照。また，学生番号で抜けているものは，欠席者等である。自己学習時間や積極性に関しては，事後のリスニングテストの際に，受験者に記入してもらった。段階は，A：極めて積極的，B：積極的，C：普通，D：やや消極的，E：極めて消極的，となっている。さらに，注目度においては，得点の伸長度が，＋7～9の者には○の印，＋10以上の者には◎の印が付加してあり，±0の場合には□，マイナスの場合には●の印が付加してある。ほかに，特別に注目に値する場合にも＊の印が，右側に付加されている事例がいくつかある。また，学生番号1～164が1年生であり，165～270が2年生である。3年次以上の学生は，今回の調査研究には含まれていない。
4）教育学部学生の受講生が少ないのは，教育実習の関係上，他学部とカリキュラムが異なり，前期試験と集中講義の日程が重なってしまったためである。
5）自己学習の時間に関しては，集中講義というかなりハードなスケジュールのために，あまり多くは期待できなかったが，中には多くの時間を自己学習に当てている例も見られ，かなりの効果をあげている場合もあった。もっとも，今回の個別調査においては，授業に集中することを最優先として，積極性を判断した。
6）詳細は，垣田ほか（1993）を参照。
7）水産学部1年生は，実習研究等のため，今回の集中講義には参加できなかった。

（参考文献）

大学英語教育学会　九州・沖縄支部研究プロジェクトチーム（1997）『このままでよいか　大学英語教育―中・韓・日　3か国の大学生の英語学力と英語学習実態―』東京：松柏社
垣田直己ほか（1988）英語教育学モノグラフ・シリーズ『英語のリスニング』東京：大修館書店
垣田直也ほか（1993）英語学習モノグラフ・シリーズ『英語の学習意欲』東京：大修館書店
片山嘉雄ほか（1994）『新・英語科教育の研究』東京：大修館書店
小池生夫ほか（1993）『英語のヒアリングとその指導』東京：大修館書店
太田伸雄（1994）「外国語教授法と学習法について―千葉商科大学方式トーイックメソッドを中心に―」『国府台経済研究』千葉商科大学経済研究所
坂本育生（1998）「リスニング能力向上における短期集中学習の効用について」『鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要　第8巻』